

此米二千七百二十八俵一斗一升二合五勺  
一、五十九町三段小 古保村

此米千七百八十俵

一、六十三町八段七十四步

增富村

此米千九百十四俵一斗八升五合

一、二十八町五段半二十五步

山科村  
伏見村

此外に一段薬師に寄進除之。

此米八百五十六俵二斗一升二合

合七千二百七十九俵二斗九合五勺

天正十一年八月十七日

利家印

種村三郎四郎殿

右山科村、伏見村の村高の内、一段薬師に寄進除之と載せられし薬師は、則ち伏見寺の本尊なる薬師佛なる事いじりし。されば彼の縁起に、昔富樫氏堂舎を建立し、田領を寄附せしむとある寄附田なるか。利家卿當國入部の初は、社寺領皆往古よりのまゝなりしゆゑ、右の如く藩士知行宛行高より除かれしかど、後には右やうの社寺領は悉く廢せられしと聞ゆ。さて今伏見寺に安置する本尊薬師及び十二神將

等を親しく見るに、脇立十二神將の内、六・七等は古作の木像にて、臺坐の裏に各左の如く記載せり。

天正十九年辛卯二月吉日 伏見寺

寄附人 半田半兵衛

渡邊新十郎

木村久五郎

金岩次郎介

上田六藏

右寄附人は各一名宛載せたり。寺記に、快存法印の時金澤へ出で堂宇を再興し、元和五年八月二日遷化とあり。されば再興の時十二神將も諸藩士より寄附せしなるべし。

○沙門圓忍傳

眞政和尚行業記に云ふ。和尚諱圓忍、其字眞政、賀州石川郡吉藤郷人、俗姓窪田氏、母長谷氏也。質樸師而體無病惱、月滿而産。慶長十四年己酉夏四月二十日之夜也、爲性聰敏、幼而有出塵之志、每讀釋典、愛而不釋、世人皆稱、此非凡童。異日當成釋門偉器矣。歳及十有四、脫二親之羈絆、入國之伏見寺。師事於快支闍梨、志學之年、圓其頂相、受學瑜伽行

法。十八登高野山、受密灌於寶光院長青公云々、然後到于峨山法輪寺。從有以闍梨、又宣道教一流、以到其闍奥矣云々。時賢俊永和上住、南岳圓通寺。宏樹毘尼幢云々。師慕仰禮謁、乃請爲力生云々。正保乙酉春、自誓受得三聚大戒。

時年三十有七云々。慶安己丑年、了性空律師以和之法隆寺北室院、令師補處云々。師偶遊泉之瀧山國分寺。斯地也、智海上人棲身修禪之勝場、而光明皇后聖誕之所也云々。師深愛有便修禪、晦跡此山中。精練數歲、寛文改元年、附圓通寺於快圓比呼。囑北室院于眞讓、茲獨自退居乎和之法起寺、以爲終焉之所云々。延寶改元癸丑年春三月、因圓師之請、以神風寺勸學院爲四方僧坊。故衆僧以師爲中興之始祖云々。一日示微疾、自覺不起、因命純空比丘爲法起寺主。集諸徒垂遺訓云々。安詳而化。實延寶五年丁巳冬十有二月二十五日也。享壽六十有九云々。右は今要文を摘むのみ。本朝高僧傳卷六十三にも、其の傳を記載して曰く、釋圓忍字眞政、窪田氏、加州石川郡人、母長谷氏、無惱而誕、幼貴佛乘、不好玩具、能誦釋典、年甫十四、入本州伏見院、師快支阿闍梨、學出離法、翌歲落髮、習諸密咒、十八上金剛峰、從

寶光院長青大德、稟兩部灌頂。義論有名、去謁賢俊於圓通寺。生信隨侍云々。慶安二年、董南都上宮皇院云々。寛文十二年以快圓請移神風寺。又住岡本山法起寺。俄構遠和云々。とあり。但し伏見院とあるは、伏見寺の誤寫なる事いちじるし。圓忍沙門は吾が加賀國出生の高僧にて、殊に伏見寺快支阿闍梨入室の學僧にて、世に高名なりしゆゑ、今爰に其の傳を略記す。

○玄秘山本妙寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開山越中國高岡本陽寺弟子圓重院日覺、當地金澤へ罷越、元和九年建立仕。發起檀那は、瑞龍公被召任中將と申女中に而御座候。當寺爲菩提所二寺建立致度迎、寺屋敷之義被申上處、則奉行業石川茂平、西村右馬助取次を以拜領被仰付。とあり。

右中將と云ふ女性は當寺開基にて、過去帳に、寛永五戊五月廿七日歿、授感院殿妙久日榮大姉、開山日覺師姊。と記載し、位牌に當寺地主とあり。

○正榮山妙典寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開祖佛藏院日敬、